

第17次訪中団に参加させていただくと決まってから、日中教育交流協会からの日程の詳細の連絡を届けていただいて、訪問地への思いをふくらませながらも下調べなど不十分なまま出発の日を迎えてしまいました。

わたしにとっては、初めて訪れる中国、教科書やニュースになったことがらからや勝手なイメージでしか知らない中国でしたが、自分が見て、感じて、そして考える視察研修旅行となりました。

行程のなかで一番の楽しみに、学校訪問がありました。それも音楽の授業を見学させてもらえることや現地の教員と意見交換の場に参加させてもらえることがそうでした。

これまで教員として20数年小学校に勤務してきたわたしですが、子どものころから「音楽」が大好きです。その理由は、音楽の基本は単純なのに組み合わせや表現方法等によってどれだけでも幅広く、奥深く、その世界は無限になるということ。しかも、時代や国をこえて、人々のよろこびやせつなさなど人生が表現されていて、わたしたちの暮らしを豊かにしてくれるからです。そして何より、手軽に楽しめるからです。

こんなわたしが、今回のような貴重な機会にたちあわせていただけるという幸運に、よろこびをかみしめていたのです。

そして、いよいよ中国に到着して2日目、教育支援をおこなった学校訪問ということで、まずは夏謝小学校を訪問しました。わたしの知る日本の学校に一步足をふみいれると、子どもたちや教員の声、チャイムの音などいろんなにぎやかな音が聞こえてくるものだという感じがするのですが、夏謝小学校は広大な農村地帯、大自然に包まれた村の一角にあるため、とても静かでした。また、学校はきれいなたたずまいで、教室をのぞかせてもらうと、ちょっと緊張げみの子どもたちと教員が授業に集中しており、わたしたち一行を熱心で真剣な雰囲気でもって迎え入れてくれました。

音楽の授業についてですが、授業の流れや子どもたちどうし、教員と子どもたちとのやりとり、音楽教育についてなどは、参観時間が短かったため、もっと見ていたかったというのが正直な感想です。しかし、これまでの教育支援のとりくみや経過と子どもたちや授業のようすにくわしい訪中団員からは、「これまで何度か見学してきた子どもたちや授業の変化に驚いている。3年前は、準備中という印象だったが、音楽教育をおこなう環境ができてきていることに感動。子どもたちが音楽教育をとおして成長することをこれからも楽しみにしている」とコメントしているのを聞かせてもらって、音楽教育において今は過渡期であることや子どもたちの将来への希望や可能性がこれからますますひろがっていくのだということがわかり、さらに感激した次第でした。

次に訪れた東平州城道孫崗小学校も大自然のなかにある学校で、ここでも熱心な授業風景や教育支援として贈った楽器の数々を見せてもらいました。学校訪問としては最後の訪問地である東原実研小学校は、びっくりするほど近代的なつくりで、「○○○○○歓迎！（○にはわたしたちのことを中国の言葉で書かれていた）」ときらめく電光掲示板がわたしたちを出迎えてくれました。この学校で「第3回日中音楽教育交流会」がおこなわれ、教育・学校関係者、音楽教員が大勢で歓迎してくださいました。交流会では音楽の教員から、日々の音楽教育の実践の報告や昨年度の日本の学校訪問での感想、音楽の教科書、授業、教員採用について等の質問がだされました。

わたしは、日本におけるこれまでの音楽教育の実践についてふりかえり、このような貴重な意見交換の場や交流がおこなわれることのすばらしさをあらためて実感しました。今後もこのような機会をつうじて、日中間のつながりがたしかでしっかりしたものになっていくことを強く願い、訪中の経験をさせていただいたことに感謝でいっぱいです。ありがとうございました。



2017年度に実施された第4次宋慶齡基金会教育交流代表団の受入れ・第2回音楽教育交流において、会場の一つとなった磐田市立富士見小学校に来られた山東省泰安市教育局史主任、山東省泰安市東平県第二実研小学校呉校長、山東省東原実験学校李教師の方々と再会できたことがわたしにとって一番の思い出となりました。音楽教師の方々に、富士見小学校での授業参観、教育交流会、昼休みの時間に音楽教師の皆さんが、子どもたちと一緒にダンスを踊っている写真（右写真）を見せると、「わたし！わたし！」と喜んでくれました。帰国後、早速、富士見小学校に出向き、神谷比登美校長・安藤佐織主幹教諭に、東平県の音楽教師の方々と再会したこと、自信に満ちた表情をされていたこと、東原実研小学校の教育環境が充実していたことを報告しました。2人ともたいへん喜んでくれました。



今回は、教育支援を行った学校の音楽授業を参観することができましたが、日中国際教育交流協会の果たしている役割の大きさと交流を続けていくことの重要さを感じました。

視察の間に多少のハプニングに見舞われたことも楽しい思い出の一つとなりました。また共に参加した方々と交流を深めることができたこともうれしかったです。日本中国国際教育交流協会の皆様、貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。

「互いの友好関係を築くのは、“人と人”の交流」

～第17次訪中団「教育交流」に参加して感じたこと～

今回の訪中団の一員としての参加は、他組織の方々との出会いや交流も貴重な機会だと楽しみにしていました。その半面、中国を訪問するのは今回が初めてなので、現地の方の日本人に対する見方（日中戦争問題や尖閣諸島問題などによる反日感情）はもちろん、治安、水・トイレ・・・、忘れ物はと、出発前はさまざまな不安でいっぱいでした。

北京空港に降り立ってみてまず感じたことは、空港の大きさ、そして車窓から見える地平線に大地の広さでした。大国を誇示するようなそれらの姿に圧倒されました。さらに、街は近代的な高層ビルがひしめくように立ち並んでいて、高速道路は車（外国産高級車が目立つ）の大渋滞。軽々と音もなく走る電気自転車も散見されるなど、想像をはるかに超えた光景でした。「百聞は一見に如かず」と、つくづく思いました。ただその傍ら、平屋のバラック住宅や屋台らしきものがあちらこちらに見られ、貧富の格差の激しさも感じることができました。

最初の訪問先は、宋慶齡基金会。建物のあまりの荘厳さに度肝を抜かれるとともに、その立派さから宋慶齡さんの偉業を改めて偲ぶことができました。基金会副主席の杭元祥さんや基金部長の唐九紅さん（元バドミントン世界チャンピオン）等、多くの方の歓迎を受けました。通された応接室の中で互いにあいさつ、訪中団を代表して団長の黒田文男さん（協会代表理事）がその中で述べられた「お互いの友好関係を築くのは“国と国”ではなく“人と人”の関係（交流）だ」との言葉が強く心に残ると同時に、期間中のいろいろな場面・体験の中で随所に頭を過りました。



翌日は、山東省泰安市東平県にある3つの公立小学校を訪問し、まず農村部にある夏謝小学校と孫崗小学校。この2つの小学校は、協会が教育支援（楽器購入費寄付）をしたということで、主に音楽の授業を参観しましたが、子どもたちは電子オルガン等を使って熱心に活動していました。

粗末な平屋の校舎が3棟くらい並び、机は木製の古いものを使用していました。かつての日本の学校の風景を見るようでした。

その後、市街地にある実験小・中学校（小中一貫校で、日本で言えばモデル校、研究指定校？）へ。校内に入った途端、目を疑いました。グラウンドは全天候型観客席付き、校舎も3～5階の近代的な建屋が何棟も。まさに大学並み（以上）のキャンパスでした。本舎正面の玄関上には大型の電光掲示板があり、私たちの訪問を歓迎する言葉が流れていました。さらにセキュリティも万全で校舎内外にカメラが設置されており、それらを一目でできるモニタールームも完備されていました。

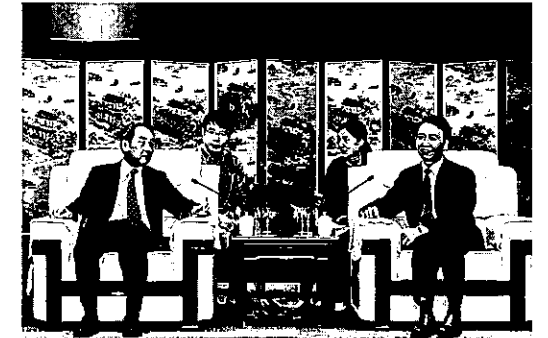


訪問の中で、音楽の授業に関する意見交換・交流がありました。現地校の先生方は積極的に私たちに質問をされており、『国は違っても子どもたちに対する先生の思いは同じなんだなあ』ということを実感しました。授業や子どもたちの様子を参観することはできませんでしたが、3校の訪問を通し、教育にもここまでの格差があるのかと、戸惑いとショックを受けると同時に、富裕層と貧困層、いつまで経っても埋まることのない溝なのかと悩んでしまいました。翻って日本に目をやると、全国津々浦々、誰でも同じ教育を受けることができることを誇らしく思えてしまいました。

この4日間、またとない機会を与えていただき見聞を広めるとともに、参加者の皆さんとの交流を深めることができました。改めて感謝申し上げます。これもひとえに、黒田代表理事、赤岡直人理事をはじめ各県代表者の皆さま、現地ガイドの唐合梅さん等、多くの方々のおかげです。たいへんお世話になりました。ありがとうございました。謝謝。

第5次宋慶齡基金会教育交流代表団の実施について（教育交流 受入事業）

2018年9月27日に、第17次教育訪中団として、中国宋慶齡基金会の中国宋慶齡青少年科技文化交流センターを訪問した折りに、黒田文男代表理事・赤岡直人業務執行理事は、杭元祥中国宋慶齡基金会常務副主席・唐九濃紅中国宋慶齡基金会基金部部长・劉穎中国宋慶齡基金会基金部公益項目所所長を訪問し、教育交流受入事業等について意見交換を行いました。その中で、2019年度に「第5次宋慶齡基金会教育交流代表団」の実施について実施の検討を要請されました。代表団については、昨年度に新たな教育交流プロジェクトの実施地となっている山東省泰安市東平県の教育局・教職員を中心に、第4次宋慶齡基金会教育交流代表団として静岡県磐田市を中心に3泊4日で実施しました。具体的な研修と言うことで代表団に参加された東平県の教育関係者の方々に大変好評でした。今回の要請はそういった第4次代表団の成果を踏まえてと言うことで、協会としても前向きに検討することになりました。その結果、下記のような要領で実施する運びとなりました。



（1）第5次宋慶齡基金会教育交流代表団受入計画案

- 1 目的 ・宋慶齡基金会及び基金会が推薦した東平県の音楽教師を日本に招き教育交流を行う。
- 2 期 日 2019年10月17日（木）～20日（日）（3泊4日）
- 3 訪日団員 宋慶齡基金会 2名
東平県教育局 2名
東平県教師 4名
- 4 日 程

1日目（17日<木>）	北京 → 羽田（成田） → 山梨 （山梨県笛吹市泊）
2日目（18日<金>）	笛吹市立富士見小学校で音楽の研究授業 教育交流会 笛吹市長・教育委員会表敬訪問 山梨県知事表敬訪問 歓迎宴 （山梨県笛吹市泊）
3日目（19日<土>）	山梨 → 東京 山梨県教育研究集会参観 東京観光 （東京都泊）
4日目（20日<日>）	羽田（成田） → 北京
- 5 費用他
 - 1日目の北京空港発から4日目の北京空港着までの諸経費（航空運賃・宿泊費・食費・移動費）は、協会が負担する。
 - 航空チケット・宿泊・移動の手配は、旅行会社に任せる。
 - 移動は、JR在来線・ジャンボタクシー等で行う。
 - 通訳は、フジ国際語学院と相談して決める。

山東省泰安市東平県音楽教育支援（教育交流 支援事業）

山東省泰安市東平県への新たな教育支援プロジェクトが開始されて4年目となりました。今年度も、泰安市東平県教育局及び宋慶齡基金会との打ち合わせを通しながら、東平県の小学校への音楽教育機器等の教育支援の内容を決定しました。今年度教育支援費100万円については、9月下旬の協定締結後、速やかに宋慶齡基金会を窓口として、東平県教育局へ送金しました。

（1）2018年度教育支援に関する協定書

2018年度教育支援に関する協定書

宋基金会法字(185)号

公益財団法人日本中国国際教育交流協会と中国宋慶齡基金会は、日中両国の友好のため、特に中国で経済発展途上地域の子どもの福祉のため、またより多くの子どもに教育を受ける機会を提供するため、今後共同の活動領域において互いに協力していくことで合意した。こうした目的を達成するため、以下の協定を結ぶ。

第1条（目的及び用途）

1. 公益財団法人日本中国国際教育交流協会は、中国山東省泰安市東平県の児童・生徒に対する音楽教育支援を中国宋慶齡基金会を通して行う。これによって音楽教育環境を改善し、水準を向上させる。
2. 公益財団法人日本中国国際教育交流協会は、中国宋慶齡基金会、中国山東省泰安市東平県教育局と共催し、日中小学校の音楽教師による日中音楽教育交流会を開き互いに学び合う機会とする。

第2条（送金及び報告）

1. 2018年、公益財団法人日本中国国際教育交流協会は中国山東省泰安市東平県の小中学校の教育条件・教育レベルを改善するため、及び、日中音楽教育交流会を実施するために100万日本円を送金する。
2. 公益財団法人日本中国国際教育交流協会は2018年8月31日前に100万日本円を中国宋慶齡基金会の指定口座に振り込む。中国宋慶齡基金会は振込を受け次第、100万日本円を山東省泰安市東平県文体教育局に送り、当地小中学校音楽教育の振興と日中音楽教育交流会の実施に使う。
3. 中国宋慶齡基金会はプロジェクトが完成する際に、実施報告（具体的プロジェクトの実施内容、決算を含む）を公益財団法人日本中国国際教育交流協会に提出する。

双方は以上の協定に同意し、この協定を日本語と中国語共に各二部を作成し、双方の代表が署名捺印の上、それぞれ一部を保存するものとする。

公益財団法人日本中国国際教育交流協会

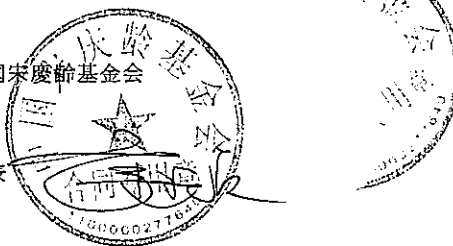
代表:

黒田 文舟

2018年 8月22日

中国宋慶齡基金会

代表:



2018年 8月30日

（2）東平県音楽教育支援報告

～2018年東平県音楽器材寄贈及び音楽教育交流について～

東平県教育局

中国宋慶齡基金会は世界の友好団体や同志と連絡することで人文交流を促進するNPOであり、長い期間にわたって、国際友好を促進し、民族の未来に注目し、人文分野における公共外交活動を行うことに力を尽くしてきた。近年、中国宋慶齡基金会は東平県教育局と厚く友情を築き、我が県の教育事業の発展に関心を寄せてきている。特に、わが県における一部の農村地域の小学校、中学校が音楽器材や教学経験の不足を存じた後、2018年2月、12月に2回も、わが県の沙河站鎮中心小学、東平県佛山小学、大羊鎮善喜小学、旧県郷中心小学、東平県清河小学、梯門鎮中心小学及び城鎮張庄小学という7つの農村学校に合計106546元相当の音楽器材を寄贈してくれた。そのため、音楽教育の需要が満たされ、わが県における音楽教育事業のより良い発展も強く促進された。

今年9月28日午前、中国宋慶齡基金や寄贈側とする日中国際教育交流協会から17人の方が音楽交流をしにわが県に訪れた。副理事長程鵬、県政府事務室主任王憲海、教育局局長何水、佛山中学党支部書記董在龍、教育局学生支援管理センター主任史桂玲が同行した。一部の県に直属する学校の学長と音楽教師代表も当イベントに参加した。交流団はまず、接山鎮夏謝小学と州城街道孫崗小学を見学し、そして青峰山実験学校で音楽交流を行った。座談会では、日中双方はともに関心を寄せる音楽教育に関する話題に意見を交換し、言いたいことを存分に発言することで、お互いに勉強しあい、共に向上する目的を達した。現場の雰囲気は日中教師代表団の素晴らしい講演で次々と盛り上がり、観客も積極的に参加した。東平県の青峰山実験学校学長である宋賀が、「自分は学校の管理者の一人だけではなく、音楽を教える先生の一でもある。子供たちに音楽の授業に興味を持たせるというのは、自分が先生になってからの18年、ずっと追いつけてきたことである。私は三重県の小林美奈子先生が音楽に対する教育的観点から、日本の小中学校の音楽教育について、いろいろ教えられた。音楽教育は人の知識欲を駆り立てることができるだけでなく、豊かな心と積極的な人生観を育むこともできる。交流や勉強によって、経験を得られる」としみじみと語った。東平県の第二実験小学校学長である呉緒柱は今回の交流で、素質教育の改革と浸透が進められる中、器楽が音楽表現の重要な一部として、非常に重視され、注目されている、と深く感じた。器楽が授業に出ることは、「歌うことを中心に」という伝統的な教育観念を変えることや、学生の視野を広げることや、学生の音楽を勉強する興味を引くことなどにつながる。

みんなは打ち解けて語り合い、さらに日本友人とわが県の音楽教師と一緒に日中両国でよく知られる「北国の春」という歌を歌った。代表団の方々から絶えない拍手をもらい、座談会の雰囲気もクライマックスに達した。

日中音楽教学交流イベントはわが県の音楽教育の発展に交流や勉強するプラットフォームを提供した。また、日本の専門家がもたらした高品質の音楽教育資源と教育新理念が強くわが県の音楽教学レベルや教師専門知識レベルの向上を促進させ、さらにわが県の中学校、小学校の音楽教学質の発展の推進に寄与した。

音楽器材が充実したことが極めて生徒の音楽勉強意欲や興味などを引き出した。さまざまな音楽教育イベントを行うことを通し、生徒の品性を磨き、知恵を啓発し、愛と美への関心や追求を刺激することができる。一部の学校は、音楽鑑賞の授業で生徒に音楽や楽器構造を紹介させ、芸術に対する自分の意見を発表する実践活動を加えて、生徒を鍛え、能力を上げることになる。

次の段階は、積極的に仕事に取り込み、協力することに努め、わが県の教育事業がより一層速やかに発展するために努力し続けたいと思う。

宋慶齡基金会の指導者の方々も長期にわたって東平教育に配慮と心遣いを賜うこと、また日本友人が東平教育への支持・援助することに対して、厚くお礼を申し上げる。東平の音楽教育人員が再び日本研修の旅に出ることを期待している。

(3) 東平県音楽楽器寄付報告

尊敬する中国宋慶齡基金会、日本中国国際教育交流協会、まずあなた方の私の県の教育事業に対する配慮と支持に感謝します！

東平県旧中心小学校、清河小学校、梯門中心小学校、張莊小学校はそれぞれ旧県郷、東平大通り、梯門鎮、州城鎮に位置していて、皆農村の小学校に属しています。その中の東平県旧中心小学校は、教師の数が43人で、11クラス396人の児童数です。清河小学校は、教師の数が45人で、16クラス643人の児童数です。梯門中心小学校は、教師の数が42人で、17クラス812人の児童数です。張莊小学校は、教師の数が11人で、5クラス157人の児童数です。ここ2年以内に、人口の増加に伴って、この4つの学校の在校生は年々の上昇が予想されます。

ここ数年来、これらの学校は教育の質の向上を中心課題として捉えて、絶えず学校の教育環境と文化の建設を強化して、児童の総合的な資質を重視して取り組みを強めて、各方面の実践はすべて良い成績を得ました。しかしながら各学校の持つ予算が有限なため、現在のところ音楽・体育の教育用設備はまだ十分ではありません。音楽の器材については、特に不十分で通常の音楽教育に必要な器材が満足ではありません。もっとも児童達の総合的な資質を育成していくために、貴会から東平県の4つの学校に対して音楽の器材の援助を行っていただけよう懇請します。

結びに、再度貴会の東平県への支援に対して心からの感謝の意を表します。

2018年11月

東平県教育局

音楽器材支援一覧表

学校名	楽器の種類	数量	単価(元)	合計(元)
東平県旧中心小学校	電子キーボード	2	2880	5760
	二胡	10	300	3000
	ひょうたん笛	20	162	3240
清河小学校	電子キーボード	4	2880	11520
	二胡	10	300	3000
	ひょうたん笛	24	162	3888
	古筝	2	1500	3000
梯門中心小学校	電子キーボード	3	2880	8640
	二胡	10	300	3000
	ひょうたん笛	24	162	3888
張莊小学校	電子キーボード	2	2880	5760
	ひょうたん笛	20	162	3240
	二胡	10	300	3000
合計				60936

第7回教育交流ホームステイ in 山梨 (教育交流 研究等助成事業)

外国人留学生は、年々増加しています。特に多いのは、中国からの留学生です。彼らは日本での生活の間に、より多くのことを経験し、また学ぼうと意欲に燃えています。そうした留学生に関わって、日中の教育交流及び文化交流そして強い相互信頼による結びつきを目指す協会の願いとしては、「日本を理解し、日本と母国との友好を担ってくれる人材により多く育てたい」と、言うことがあると思います。日本に留学している学生のほとんどは、日本語学校に通学していますが、特に入学初年度は語学力も十分でない上に、なれない異文化の中で、学業・日常生活面で困難に直面している学生も多いと言われています。協会では、こうした留学生の語学力の向上をめざし、日本をより良く理解する人材を育成するために、教育交流・研究等助成事業としてホームステイ事業を実施しています。今年度で第7回目となる本事業は、上記の諸課題等に対して大きな成果を上げつつあります。

(1) 実施要項

- 実施目的 中国人留学生の日本語学習の一助として、日本家庭でのホームステイを体験し、ホストとの交流を通して日本語の語学力を磨き、日本人及び日本文化に対する理解を深め、日中両国の友好の礎を担う人材を育成すること。
- 実施期日 2018年(平成30年)8月3日(金)から5日(日) 2泊3日
- 実施場所 山梨県下の小中学校教職員の家庭
- 対象者 中国からの留学生(大学・大学院入学のための語学研修生)
- 募集数 7人(ホストファミリー7家庭)
- 募集方法
 - ・留学生7名については、フジ国際語学院等を通じて公募・選考する。
 - ・ホストファミリーについては、山梨県の教職員関係団体の協力を得て選定する。
 - ・男女比は、ホストファミリーの希望を聞きながら調整する。
- 日程
 - 8月3日(金)
 - 新宿駅9:00集合→山梨へ(新宿9:30発JR中央線かいじ101号甲府行き)、JR甲府駅11:13:ホストファミリーと合流(自己紹介等簡単なセレモニー)→ホストファミリーごとに活動にうつる
 - 8月4日(土)
 - ホストファミリーごとの取り組み
 - 8月5日(日)
 - 午前中はホストファミリーごとに過ごす→山梨県教育会館15:00ホストファミリーとお別れ会(全体総括会)→JR甲府駅16:20(甲府発16:32発JR中央線あずさ24号新宿行き)→新宿駅18:07解散
- 経費
 - ・留学生から参加費20,000円を徴収し、財団から交通費(実費)及び食費5,000円を支給する。ホストファミリーへは、諸費用として30,000円を協会より支給する。
- 取り組み
 - ・年度開始早々に、フジ国際語学院の担当者(林先生)・山梨県教職員組合の責任者(金丸委員長)と連絡・打ち合わせを行う。
 - ・7月18日(水)12:00～ ホームステイ参加希望学生説明会
 - ・7月23日(月)13:00～ ホームステイホストファミリー説明会
 - ・各ホストファミリーには、計画書を出してもらう。
 - ・ホームステイ希望者には、紹介書類等を出してもらう。
- その他
 - ・留学生には、旅行保険を掛ける。(協会で負担)

(2) ホームステイ ホストファミリー・留学生名簿

NO	ホスト氏名	よみがな	所属等	留学生氏名	ローマ字	性別	年齢
1	中村 直人	なかむらなおと	富士河口湖町立 船津小学校教頭	黄 奕焄	huang yihan	男	18
2	早川 賢一	はやかわけんいち	笛吹市立 石和西小学校教諭	张 雨昕	zhang yuxin	女	18
3	笠井 斎史	かさいまさふみ	市川三郷町立 上野小学校教諭	田 铭杰	tian mingjie	男	18
4	清水ひとみ	しみずひとみ	中央市立 田富南小学校教諭	沈 时	shen shi	男	18
5	小林 章芳	こばやしあきよし	北杜市立 白州小学校教諭	黄 子朦	huang zimeng	女	18
6	岩澤 宏行	いわさわひろゆき	山梨県総合教育センター 主幹指導主事	翁 宸昕	weng chenxin	女	18
7	小林 康人	こばやしやすひと	大月市立 七保小学校教諭	邹 晓怡	zou xiaoyi	女	18

(3) ホームステイ ホストファミリーからの報告

- 家族で3日間の予定を考えたり、役割分担したりすることによって、家族で話をする時間が増えた。家族全員の時間を合わせることは簡単ではなかったが、2・3日目は全員で行動することができた。
- 中国の現状や学校の様子について子どもたちに話してくれ、自由研究としてまとめた。ふだん決まった人との交流だけだが、国・文化のちがう人と生活し、相手のことを考えて行動するのは子どもにとってよい刺激となった。
- 山梨の文化や地域を理解してもらうために、家族で分担して学習し、様々な発見があった。
- 普段は夫婦二人での生活、娘が帰ってきても家族三人での生活でしたが、今回、娘が一人増えたような感覚で、「家族四人」でいろんなところにお出かけすることができ、とても良い経験になりました。
- 富士山の五合目に行った際、絵はがきを買ってあげ「中国の両親に手紙を書いたら？」と言って渡したところ、とてもうれしそうに手紙を書き、五合目の郵便局で投函することができました。
- 普段は県内よりも県外に出かけることが多かったのですが、今回、あらためて県内の素晴らしい場所を巡り、私たち自身が山梨のよさを（この年になって）発見することができました。
- 二日目に精進湖の納涼祭があり、留学生が「花火を見てみたい」と話していたため連れて行くことができました。他の花火大会とは違い、たまたま椅子に座ってゆっくり落ち着いて花火見学をすることができ、留学生も喜んでいただいているように思います。
- たまたま韓国アイドルグループが好きだということがわかり、自分の娘と同じであったため、娘と韓流アイドル等に関して話をするのができよかったです。
- 2泊3日という限られた期間でしたが、留学生と過ごす中で、日本と中国の文化や習慣の違いに気づかされたり、理解を深められたりすることができ、とても貴重な経験となりました。
- 留学生自身も学校の先生を目指していると言うこともあり、2日目は、妻の勤務先の高根清里小学校へ行きました。校舎内を見学したり、学校で育てている花や野菜に水やりをする手伝いをしてもらったりしました。本人からも、日本の学校の様子を知ってもらう機会となったと、喜んでもらえてよかったです。
- 2日目は、清里方面に観光に行ったり、サッカーの試合を観戦したりしました。また、家庭菜園のじゃがいもやキュウリを収穫して食べました。3日目には、地元の祭りに行きました。茶道のコーナーでは、お茶を点てもらったり、太鼓や踊りの演奏などを見たりすることができ、ささやかですが、日本の文化に触れるいい機会となりました。屋台でたこ焼きを買って食べましたが、留学生には、初めてだったそうです。

- 遠くへ出かけたり特別なことをしてあげたりすることはできませんでしたが、一緒に過ごしている間、よくおしゃべりをしました。私たち自身が中国の文化や習慣について初めて知ることばかりで、私たちの方がいい経験をさせていただきました。
- 初めはどんな子だろう？とか、言葉は？食べ物？など正直心配しましたが、留学生が素直でとても真面目な子だったので安心しました。私たちも楽しく過ごすことができました。ありがとうございました。
- 普段、あまり観光をしないところもじっくりと観光することができ、留学生を通して改めて日本や山梨、長野のよさを見つめることができました。
- 実家に行き、親せきとご飯を食べたり、友だちを誘って行動を共にしたりしたので、沈さんのおかげで、久しぶりに親せきと語り合うことができました。
- 日本文化に慣れ親しむ目的の交流だが、娘二人が中国語を話し、中国に興味を持ち、却って中国文化に家族が交流させていただいた。
- 留学生に山梨のことや歴史を説明することを通して、山梨のことをもう一度考えることができました。
- 学生と家族との貴重な交流体験ができた。
富士山五合目登山、まかいの牧場での体験、氷穴、家の庭での花火など、話をしながら楽しい時間を過ごすことができた。祖父ともナシ、ブドウ狩り体験を通して交流できた。
- 中国への距離感が縮まった。
前回のホームステイを通して中国への興味を深めた長男は、大学で中国語を専攻している。中国への留学体験を、今回のホームステイで生かしているようだった。会話が少し通じるということだけではなく、中国の衣食住・文化について日本と比較しながら接することができた。
- 3日目の時間が、十分にとれたことはよかった。急な用事が入ったりして、家族全員で行動できない時間があったので、3日目が長かったことはありがたかった。
- 絵が好きということで、予定を変更して美術館に行きました。特別展の体験も楽しくでき、ミレーなどの本物を見ることもでき、とても喜んでくれてよかったです。
- 中国のことをいろいろ聞くことができ、日本と同じことや違うことを知ることができました。
- 三女（8歳）が留学生を大好きになり、来てくれたことに大変喜んで、いつもべったりでした。留学生にも優しく相手をしてもらいありがたかったです。
- 日本語がまだ難しかったり、私たちもうまく伝えられなかったりと、苦労する場面がありましたが、何とかしてわかってもらおうとすることで伝えられることができてよかったです。
- 外国に単身で来て日本のことを勉強しようという方と3日間過ごすことにより、子どもたちに良い刺激を与えることができました。
- 日本や地元の山梨のことを改めて振り返り良さを実感する機会となり良かったです。自分の子どもも意外と知らないことがあることが分かり驚きました。
- 普段家族の時間がずれてしまう生活でしたが、留学生の方が来てくれたことで、みんなで行動することが意識でき、留学生の方を中心に、家族そろっての時間が持てよかったです。

学生への評価

- 日本のことが好きで日本語をよく勉強している。中国にはない日本のお祭りや料理等はとても興味をもってくれた。
- 子どもと嫌がらずに遊んでくれたり、言うことを聞いてくれたりした。
- 日本に来て一人で生活し、これから大学に入ってがんばろうとする姿は、子どもにとってよい見本となった。
- とても真面目な子で、生活に関して気になることもなく、きちんと過ごしてくれました。
- 日本語をほとんど話すことができず、コミュニケーションには多少の不便さを感じました。（お互いに）英語が得意と書いてあったので、英語でコミュニケーションをとろうとしましたが、それもなかなかうまくいきませんでした。
- 自己紹介にも書かれていましたが、内向的な面が強く、留学生自身から話すことはほとんどありませんでした。（こちらからの問いかけには努力して答えてくれていました。）

- 将来に関して、明確な職業観をもっており、その実現に向けて具体的に取り組む姿勢に好感をもちました。
- 常にスマホを操作しており、(おそらくチャットをしていたと思われるが) コミュニケーションのとり方に不安があったことだとは思いますが、ホスト側も何とか留学生の意に沿ったもてなしをしたいと思っていた中ですので、ちょっと残念に感じました。(現代人ということでしょうか?)
- 日本に興味を持っていて、日本語の勉強をしているとはいえ、日本へ来て間もないのに、日常会話は普通にでき、本当に感心しました。話の受け答えもしっかりしていて好感がもてました。私たちの方からも、「何か困ったことがあったら何でも聞いて」と言いましたが、留学生の方からもわからないことや聞きたいことを聞いてきてくれたので、助かりました。
- 何気ない会話の中からも中国と日本の違いを感じ取り、そのことについて、こちらから説明したり、留学生からも説明してもらったりしました。丁寧に話してくれ、お互いにお互いを知るいい機会となりました。
- 本人は、謙遜していましたが、日常会話はほとんど支障はありませんでした。わからないことがあっても、漢字で書いたり、簡単な英語に置き換えたりすると問題なく解決しました。受け容れる側としては、本当に助かりました。
- 留学生は、とても明るく、意思がはっきりとしていたので、あまり気を遣わずにしたいことや苦手なことが分かってよかったです。
- はじめは、はずかしがって大きな声であいさつができませんでしたが、時間がたつにつれて、堂々と日本語を話すことができました。
- 自分の家族の話や自分の夢を話してくれて、とても心を開いて滞在してくれました。
- 食事でも苦手なものがあっても、まずは食べてくれてチャレンジする気持ちが素晴らしかったです。
- 子どもたちと一緒に遊んでくれ、面倒もよく見てくれて、子どもたちも喜んでいました。
- おとなしい感じだったが、礼儀正しく、真面目な学生だった。
- ハードスケジュールだったと思うが、積極的に関わろうという姿勢が感じられた。また、フレンドリーで、何をするにも一緒に楽しくでき、家族との交流が深まった。
- 自分の健康管理がきちんとできていた。
- 行きたいところ、食べたいものなど、長男と話しながら相談して決めたこともあった。しっかりした自分の考えをもっている。自分の夢に向かって邁進し、目標を達成して欲しい。
- 日本語がまだわからないことが多く緊張もしていたようでしたが、3日間でだいぶ慣れた様子がかえよかったです。
- 立ち振る舞いや挨拶など礼儀正しく、落ち着いてしっかりしており、好感が持てました。
- 親戚や近所の子など、たくさん初めての方とかかわる機会を持ったので気疲れしたと思いますが、さわやかに過ごしていた。
- 日本のことが大好きとあって、いろいろなものに興味を持ち、頑張っていた。

今後への希望、改善して欲しい点

- 昼食前の到着だったので、全員で昼食を取る等があったらよかった。
- 事前にいただく「個人データ票」には、(事前学習等も含め) 日本でしてみたいことや、(今回は山梨で) 行ってみたい場所、食べてみたいものなど、日本での生活や行動計画の作成に役立つであろう情報を聞き取っていただいた上でお知らせいただけるとありがたいと感じました。コミュニケーションをとりながら様々な情報を聞き取ろうと思いましたが、日本語の力(不足)もあり、十分に聞き取ることができませんでした。(こちらの力不足が原因だとは思いますが・・・)
- 上記に関わって、来県前に、事前に電話等で挨拶や連絡等を行うことができるとありがたいと感じました。予定を立てる上で必要な情報を得られ、私たちから「待ってるからね!」と伝えることができますので・・・。不安な中來県する若者なので、待っていてくれる人がおり、その声を聞いた状態で向かった(迎えた)方が(お互い)安心できるのではないかと思います。
- 特に大きな問題や課題などはありません。これをきっかけとし、今後もお付き合いや協力できることがあれば、させていただきたいです。

- 今回、旅費として交通費をだしていただき、ありがとうございました。私自身は、活動費として、3万円いただいているので、その中で十分と思っていました。実際に、私たちの場合は、大人3人(留学生を含み)だったので、食費・その他に使う額は限られていましたが、家族の人数が多かったり、活動内容によっては、出費もかさむことを考えると、交通費を出していただけるということで、気にせずに活動できると思いました。
- 個人情報のことで難しいと思いますが、ホームステイに来てくれた留学生のその後などやはり気になります。知る機会などがあるとうれしく思います。
- 貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。学生の皆さんにもよろしくお伝えください。
- 特にありません
- 日程も時期も適当だと思います。
- とてもよい交流事業だと思います。留学生が得るものもあると思いますが、受け入れる私たちも、たくさん得るものがありました。とても楽しく充実した三日間を過ごさせて頂きました。ありがとうございました。
- また山梨でのホームステイを計画してほしい。
- 留学生の今後に役に立ってもらえれば大変うれしいし、受け入れるほうにとっても大変貴重な機会となるホームステイであると思います。またこれらの事業が、中国と日本の大事な架け橋になっていることを知ることができ大変勉強になりました。協会の方には大変な労力がかかることと思いますが、今後も長く継続していただきたいと思います。

(4) ホームステイ留学生からの報告

ホームステイ感想

黄 奕焯

八月の初めに、私は3日のホームステイに参加しました。本当に良かったと思います。山梨県の家庭で楽しい3日を過ごしました。日本人の日常生活や文化を味わうことができました。

私がホームステイしたのは、四人家族のところでした。中村先生と奥様、そして、息子さんの中村先輩と娘さんの詩乃さん。中村先生はある学校の教師です。中村先輩は中国に1年留学しました。だから中国語を話すことができました。小さい妹は高校3年生、今大学に合格するため頑張っています。

お父さんの中村さんとお母さんはとても優しい方です。最初に中村さんと会ったときは私はちょっと緊張しましたが、でも中村さんはとても優しい人ですから、緊張なくなりました。その後、中村先生と一緒に山梨大学を見学しました。そして、とても綺麗な武田神社へ行きました。そこで御守りを買いました。夜に、日本で初めて回転寿司を食べました。とても美味しいです。それだけでなく、家に帰ったとき、日本で初めてお風呂をしました。

2日目は皆で有名な富士山へ行きました。私はずっと富士山へ行きたかったです。でも、夏の富士山は雪がないから、ちょっと残念でした。私たちはバスで富士山の麓へ行きました。そして、登山口の神社で参拝しました。やまから降りると、一緒に有名な氷穴へ行きました。暑い山梨県なのに、氷穴はとても涼しくて違うところでした。その中には氷もあります。氷穴から出ると、馬飼野牧場へ行きました。その牧場では、色々な面白いことができます。わたしたちは馬に乗ったり、吹き矢をしたりしました。ちなみに、羊の毛はふわふわしていて、とても気持ちがいいです。



夜に、天井を食べました。天井というものはいっぱい天ぶらがあります。家に帰ると、花火大会を開催しました。日本にはとても小さい花火があります。糸みたいな花火です。

最後の日は、皆と一緒に山梨県の県立博物館を見学しました。その博物館で山梨県の歴史を知りました。そして、日本の伝統的なゲームをしました。例えば百人一首です。そして、科学館へ行きました。そこで一番面白かったのは、忍者のやり方です。忍者として、全面的なことを知り尽くしていると思いました。

山梨県で過ごした3日間はとても楽しかったです。色々な新しい物を知りました。

ホームステイ感想

张 雨昕

八月の初旬、私は三日間のホームステイに参加しました。山梨県の早川家でとても楽しい3日間を過ごしました。

私がホームステイした家庭は、5人家族でした。とてもやさしい早川夫婦、そして彼ら3人の可愛い娘たち。初めは私の日本語が上手ではないので、みんな言語の困難を引き起こすことを心配していました。でも、車の中で、可愛いせいちゃんが、簡単な日本語で私と交流することをしてくれました。私はとてもうれしかったです。

その後、私はホームステイの早川家に着きました。家は大きくてきれいでした。荷物を整理して、そして早川さんは、せいちゃんのおじいちゃんおばちゃんの家に入れて行ってくれました。おじいさんは早稲田大学を卒業した人で少し厳しい感じがしました。私はちょっと緊張し始めました。でもおじいさんはとても楽しくて、中国の美食と文化について話してくれました。とても楽しかったです。それからおじいさんは、野菜と果物を探しに、私をおじいさんの菜園につれて行ってくれました。

まさか日本の住民が自分の菜園を持っているとは思わなかったです。おじいさんの作っている種なしのブドウは大きくて甘かったです。夜は早川さんが取った野菜でおいしい料理を作りました。夜も花火をして美味しいスイカを食べて本当に楽しかったです。

翌朝、早川さんとせいちゃんと一緒にバスで遊園地へ行きました。行く道の途中で、富士山が本当に高いのを見ました。遊園地に着いたら、ジェットコースターの人たちの声が聞こえてくるので少し怖い感じがしました。私は度胸が小さいので日本のアトラクションを体験してみても本当に残念です。観覧車も妖怪屋敷も面白い。夜には早川さんの家で歓迎式が行われました。夜は地元の花火大会を見に行ってきました。花火は本当に綺麗です。早川家に来て家庭の体験ができてよかったです。

三日目、早川さんは私を山梨県の美術館に連れて行った。日本の美術館の作品は美しく面白いです。お昼にそばと天ぶらを食べに行ってきました。美味しい。

いつの間にか3日が過ぎて、私の心の中ではとても大事になった山梨県という美しい場所と可愛い早川一家。早川さん一家は私のためにぶどうや着物をプレゼントしてくれて、本当に感動しました。

今回のホームステイは、日本の美しい風景、面白い文化、おいしい食べ物を見せてくれました。さらに、日本の住民の可愛らしさと優しさを感じさせられました。この旅行は私の人生の中で貴重で忘れられない思い出になりました。

早川家に三日間お世話になってありがとうございました。



山梨県のホームステイ

田 銘杰

皆さん、こんにちは！喜んで今回のホームステイのイベントに参加しました。山梨県の笠井さんの家庭で楽しい三日間を過ごしました。日本人の日常生活を体験しただけではなく、有名などころにも行きました。

私は笠井さんの家族たちに会う前に、これはどんな家族だろうかと考えていました。それに、私は日本語があまり上手じゃありませんから、ちょっと緊張しました。いつも失礼な行動をすることを心配します。そのため、マナーも十分に用意します。中国の礼儀によって、私も中国のお土産を準備しました。そして、日本の礼儀もよく覚えました。それから、愉快でリラックスした気持ちで今回のイベントを迎えました。

第一日、私たちは新宿駅前で集合しました。甲府駅へ行く途中で綺麗な景色を見ました、列車の両方が山で囲まれている。そんな壮観な景色を見たら、思わず写真を撮って、「最高なところだ」と思いました。甲府駅、着きました！やっと恵さんと3歳の可愛い春輝君も会いました。彼らの可愛い顔と熱心な挨拶のために、私はすぐこの家庭を愛しました。天気が暑かったから、私たちは甲府市の放送局で休憩して、三日間の観光計画を説明してくれました。楽しみでした。電車で笠井さんの家に行く

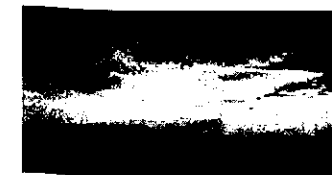
途中に、春輝君はいつも活気がありました。自分の故郷を紹介してくれて、電車を降りる前に、「田君！荷物、忘れないでくださいね！」と言いました。感動しました、3歳ですが、熱心な子供だと思います。

午後、笠井さんのクルマで清里高原へいきました。さすが日本製のクルマ、自動ドアがあります。座り心地がいい。清里高原にいったら、涼みを感じました。旅客はケーブルカーで山頂に着くことができます。ケーブルカーの中で、景色を見ながら、和やかにお話しました。1900メートル

ルぐらいの山頂に着くと、清里テラスが使えます。横になって、空が見えます。綺麗な景色を見ると、驚きました。こんな景色は私初めて見ました。その後、有名なアイスクリームを食べつつ、明野ひまわりを見ました。皆さんも疲れましたが、大満足しました。夜、私は40人ぐらいのパーティーに参加しました。皆さんも私を迎えて、私に関心しました。私も皆さんに中国語を教えました、面白かったです。

二日目、鳴沢氷穴を見学しました。寒かった！穴の温度は0℃だけです！次は本栖湖です。本栖湖の周りにいったら、富士山頂も見えます。後、富士サファリパークです。皆さんは自分のクルマに乗って、いろいろな動物が見えます。ライオンとか、虎とか、私も初めて猛獣とこんなに近い距離で接触しました。「人と動物は仲良くしなければならない」と思いました。12時、沼津港に行きました。大きい港口です。人が多いし、船も多いし、海鮮も新鮮だし、いい所です。その後、有名な寿司を食べました。満足しました。午後、沼津の水族館を参観したり、おおくの深水魚を知ったり

しました。夕方、私は日本の餃子の作り方を習いました。私も皆さんに餃子を作ってあげました。達成感も感じました。夜、私は笠井さんの隣人を知って、皆さんと一緒に花火をしまし





た。楽しかったです。ああー、素敵な時間は花火のように短いのだと思いました。三日目、笠井さんは私を連れて四尾連湖に行きました。四尾連湖に着くと、大きい湖や綺麗な森が見えます。この湖で、船がこげます。湖が澄み切っています。11時半、私たちは恵さんが働いている小学校を見学しました。さすが日本の小学校、先生が優しいし、学校の施設も多いので、そんな学校に来る学生たちの学習意欲を刺激することができます。午後、私は西嶋に行って、和紙の作り方を習いました。私はうちわを作りました。図案は中国の旗です。

3時、皆は山梨県教育会館に集合しました。お菓子を食べながら、自分の感想を発表しました。楽しかったです。私も感慨無量でした。自然への日本の態度は明らかだし、日本人の素質がよいし、憧れの国ですね。



別れたくないなあー。笠井さんは私にプレゼントをくれました。笠井さんと恵さんや春輝君にいつもお世話になっております。分からないところがあれば、いつも英語で説明してくれました。感謝しています。山梨県で写真を見たら、あの時の楽しい情景が私の目の前に浮かびます。

この三日間、いつでも忘れられません。ありがとうございました！



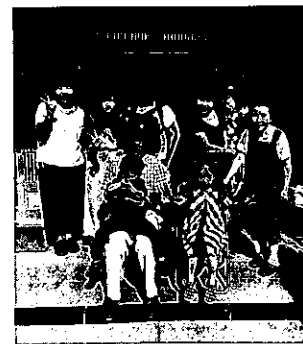
ホームステイ感想

沈 時

今回のホームステイはとても楽しかった。清水さんは本当に親切でした。清水さんの娘たちもとても可愛いです。サラちゃんは折り紙が上手です。最初の日、私は富士急ハイランドへ行きました。私は遊園地の設備が怖いからです、ずっと食事していました。そして夜になると、次の日は松本へ行くことになりました。その瞬間、私は松本に先輩がいますと相談しました。清水さんは先輩も呼んでほしいと言ってくれたので、本当に嬉しかったです。そしてようやく第二日が来ました。私たちは先に諏訪湖へ行きました。諏訪湖で船で遊びました。諏訪湖は本当に美しいです。さすが「君の名は」の取材地、私は「前前世」を聞きながら諏訪湖に参りました。



もし、私も女の子と体を交換できるなら、幸せでしょうか。だから、私は空と対話した「神よ、貴様は本当に存在なのか、もし本当なら、力を貸して！」そして午後5時、セブンイレブンでバイトする先輩を迎えた。先輩はやはりいつも綺麗な女の子ですね。夜、私たちは温泉へ行きました、とても気持ちいいでした。いよいよ最後の日、終焉の時が来た。私たちは馬に乗った。人生で初めて馬に乗ってみてやはりすごかったです。今回の経験は私にとってとても重要です。ありがとうございました！



ホームステイの感想文

黄 子 藤

八月の初め、私は3日間のホームステイに行きました。その時私は日本へ来て一ヶ月だけでした。日本人の家族と一緒に生活するのは初めてだから、ちょっと不安でした。

でも、ホームステイの家族と会う時、彼らはすごく親切で緊張していた私はホッとしました。私のホームステイの小林さん家は三人家族で、小林さんと奥さんと一人娘のめぐみさんです。小林さんの家にワンちゃんがいて、とても可愛かったです。小林さんの娘さんは東京の学校に通っているので、私は会うことができませんでした。残念でした。

初日の午後、めぐみさんと一緒にスーパーへ買い物に行きました。夜に、一緒に晩ご飯を作りました。私に玉子焼きの作り方を教えてくれました。それから、一緒に寿司を作ったり、テレビを見たりしました。初めての経験だったので、楽しかったです！夕食後、家族と一緒に花火を打ち上げました。とてもきれいだったと思います。夜、初めて畳に寝て、とても新鮮な体験でした。



二日目は小林さんとめぐみさんの仕事している学校へ見学に行きました。教室はとてもきれいでした。壁にたくさん子供の作品がかざってあって、とても素晴らしかったです。学校の空き地にはいろいろな花と野菜が植えてありました。学校は生き生きとしていると思いました。昼に、皆と一緒に萌木の村に美味しいカレーを食べに行きました。夜は、小林さんとめぐみさんと一緒にサッカーを見ました！皆さんほとんどチームの服を着て、チームの歌を歌いました。私は初めてサッカーの試合見る経験をしたので、最初の時は本当に驚きました、みんなすごく熱いです！

第三日は昼に、山梨県のお祭りを見に行きました。暑いけど楽しかったです。お祭りでおいしい天然水を食べました。すごく冷たいです！しかも、会場で仮面ライダーのショーがあって。とても面白かった！その三日間を通して、私はいろいろなことを勉強しました！本当に大切な記憶でした。小林さん家のみんな、誠にありがとうございました！



有意義な3日間

翁 辰 昕

八月の初めに、私たちは三日間のホームステイ活動をしました。私は幸いに山梨県に行って、そこでとても有意義な3日間を過ごしました。日本の家庭に住むのは初めてで、最初はとても緊張していました。日本語の表現はあまり上手ではありませんが、すぐに岩澤さん一家の親切のおかげで安心してしまいました。

この3日間、日本料理を作ってみました。美穂さんのおかげで最後の料理はとてもおいしいです。美術館を見学するのが大好きなので、岩澤さんが面白い美術館をたくさん見せてくれました。その中で私に

